

# 佐事研だより

佐賀県公立小中学校事務研究会  
編集発行人 会長 古川 治

## 第 3 4 回佐賀県公立小中学校事務研究大会報告

5 月 3 0 日（金）アバンセにおいて開催された佐賀県公立小中学校事務研究大会の内容を報告します。

### 会長あいさつ

佐賀県公立小中学校事務研究会 会長 古川治



第 34 回研究大会開催にあたり、公務ご多忙の中、ご臨席賜りました佐賀県教育委員会副教育長 中島秀明様をはじめ、関係機関・関係団体の皆様に厚く御礼申し上げます。また、本大会では学校事務研究の第一人者であられる文部科学省・国立教育政策研究所 総括研究官 藤原文雄様を講師としてご講演いただけたことを光栄に思います。

時代の流れは大きく変わっており、共同実施をベースとした組織マネジメントによって、一人一人が教育行政職員としての気概をもって、自ら学校を創っていく気持ちで進んでまいります。

### 県教委講演「これからの学校事務について～新しい制度の中で～」

佐賀県教育委員会 副教育長 中島 秀明 様

少子高齢化・グローバル化など社会の急激な変化、学力向上やいじめ・不登校などの学校を取り巻く問題に対応していくためには、学校の組織力強化が必要である。そのために「共同実施」を行っている。

昭和 33 年度にいわゆる「義務標準法」が制定され、当時、佐賀県では義務制の学校に小中学校あわせて 15 名の事務職員が配置された。それが現在では 295 名に増員されている。このことから教育を支える事務職員という職種の重要性がわかる。

平成 11 年度からは、全国に先駆けて佐賀県で初となる「学校事務の共同実施」が小城町で試行された。佐賀県は事務職員を集中させるセンター化ではなく、中心校方式の共同実施を選択した。その理由は、学校とは学校事務職員を含め、多様な職種が集まってこそ機能するものだからである。平成 13 年度から加配が増えていったが、市町ごとに事務職員の仕事にバラつきがあったため、平成 19 年度に「佐賀県公立小中学校事務改善検討委員会」を設置し、平成 23 年度には「管理職事務長制度の導入」と「諸手当認定権の移譲」を行った。平成 24 年の採用試験からは「学校事務枠」がなくなり「行政」に一元化された。平成 25 年度は、「統括事務長の設置」を行った。新規採用者は、県庁職員とのパイプを活用して仕事に臨んでほしいと願っている。また、先輩方は共同実施を通じて仕事の楽しさを新規採用者に教えていただきたい。

最後に事務職員に期待することとして以下の 5 点をお願いしたい。



① 学校は、文書事務・会計事務を研修する場になってほしい。

県庁の各部署から総務事務がなくなり、総務機能が弱くなっている。

② 事務長・統括事務長を目指してほしい。

「立場が仕事を作り、人間を作る」目指すことで、変革する力が身に付く。

③ 優しいだけではなく、厳しい面も持ってほしい。

仕事をするにあたって、人間関係を気にしてしまいがちだが、優しいだけではいけない。

④ 子どもたちのために何ができるかを常に考えてほしい。

子ども＝「未完成の人格」なので、将来社会に出た後のことも考えて接してほしい。私たちは人格を作るべき立場なので、言動や身なりにも気を配ってほしい。

⑤ 発想の転換をする。

学校は先生だけの組織というわけではなく、様々な職種があつてこそ成り立っている。その組織力を持って柔軟な発想力を身につけてほしい。

#### 【大会アンケートより】

○今までの事務職員の流れがよくわかりました。新たに設置された役職になれるように積極的な意識をもって職務に臨みます。

○事務職員に対し、期待していただいていることがたくさん伝わってきました。お気持ちに応えるべく、そして教育や子ども達のために益々頑張りたいと思いました。

## 記念講演「36年間を振り返る－後輩の皆様へ期待と敬意を込めて」

佐事研前会長・芦刈中学校前事務長 鮎川 慶一 様

自分の経歴を見直すと多くの経験をしているが、自ら進んで取り組んではないことが多い。先輩に言われてやっているうちに出来るようになった。多くのことに取り組むことによって事務職員としての自分が形成される。新しいことに挑戦する時は、いつも必ず助けてくれる人がいた。

佐賀県では小城町で最初の共同実施が始まったが、導入当初は様々な折衝と交渉が必要であった。どうすれば自分の思いがとおるのか。そのために必要なのは、情熱と相手にうまく伝えるための理論、相手の共感を得るための能力が必要であるということを経験から学んだ。「私には無理です」「あんなふうにはできません」という声を聞くことがある。しかし、時間は平等にある。「自分には無理」ではなく、強みを生かすように考える中でいろんな経験を積んではどうだろうか。誰でも新しい経験は怖い、年齢が上がると余計にその傾向にある。若い時からできるだけ多くの経験をし、たくさんの引き出しを持つことで、それが将来自分にとっての強みになる。経験値を持つことで恐れが減る。

以前は、事務職員は単数であるがゆえに自分のことだけをやればよかった。それが共同実施により、組織運営を考える必要が出てきた。共同実施は、事務長だけが作るわけではない。全体のやる気が出るように、室員と話をしたうえで役割を決められるようになるのが一番よいのではないだろうか。採用一元化により、これからいろんな所属へ行き、その働き方は流動的になるだろう。その中で事務職員が役立つような学校運営を作ることになっていく。ぜひ新しい学校を作っていってほしい。



【大会アンケートより】

- 新しいことに積極的にチャレンジし、時代の流れに沿った事務室経営をしたいです。
- まずは長い間本当にお疲れ様でした。先生のお人柄が多くの方のやる気を引き出したのだと思います。

**講演 「学校事務白熱教室」**

**シリアス！打合せなし！ぶつけ本番！！**

文部科学省国立教育政策研究所 初等中等教育研究部  
 統括研究官 藤原 文雄 様  
 佐事研会長 城南中学校 統括事務長 古川 治



今回の講演では、白熱教室というタイトルからもわかるように、会場の全員を巻き込んで議論を進めるため、「Yes・No」と記載された色違いの2枚のカードが配布されました。会場の全員がまずそのカードをあげる練習を行い、適度な緊張感を持ちつつ、会場が一体となったところで、全事研熊本大会佐賀分科会を見据えた「学校事務白熱教室」が始まりました。

最初に、今大会を午前中から聞いてくださっていた藤原先生に、佐賀県の学校事務に対する感想をお聞きしました。藤原先生は、講演に参加される前に、佐賀市立昭栄中学校に行かれ、校長先生にお会いして、その時にうかがった話をされました。藤原先生は、エビデンス（証拠）に基づく事を重要視されており、どの県に行かれた際も、「こういったことをやっている」「こういう成果がでた」などの言葉を鵜呑みにせず、実際に学校現場へ行って複数の方にお話を聞き、帳簿も見るなどの裏付けを行うそうです。佐賀県の加配有りの制度化された共同実施は実際のところ学校運営への貢献についてはどうなのか…。

校長先生と話す中で、学校教育目標の「夢・根・感動」の「根（花を支える根のように、周りの人を支える気持ちを大切に）」という言葉に大変感銘をうけ、校長先生のお人柄にも感動された後、校長先生へ共同実施を実際どのように思っているかについて、本題を切り出されました。校長先生は、エピソードをふまえながら、次のように話して下さったそうです。

**校長先生の思い**

- 事務職員は、教育環境を整備してくれている職員である。
- 管理職になるまで、事務職員の職務内容が見えなかった。共同実施の会議を校長室で行っている時に協議内容を聞いて、学校のために多くのことを考えてくれていることを知った。一般の先生には見えていないので、仕事を「見える化」することが大事である。

この話を聞かれた藤原先生は私たちに次のように助言されました。『事務職員は「教員の想いを形にできる人」である。また、「事務職員は直接授業をしない＝子どもの教育に役に立たない」のではなく、教育環境の整備等でも十分に役に立っているのに、外部には見えていないことが多い。つまり、仕事の「見える化」をすることが大事である』

「見える化」の具体例として、昭栄中学校などの取り組みを例に、『事務長が式典等の開会・閉会の挨拶を行う、組織図での事務の位置づけをしっかりとする、職員室の机の配置（職員会議の座席の位置はその人のステータスを現す！）などの様々な方法が考えられるが、いずれにしても、手立てや工夫なしに学校運営への参加は難しく、一つ一つ積み上げていくべきものである。



困っている時に役立つのが行政であり、そもそも行政とは何か？答えはシンプルで、「地域住民の福祉の増進（つまり、問題を解決して地域住民を助ける）」が原点である。たくさんのことが今回の学校視察でできてきて、裏付けを一つ得ることができた』とするどい考察の中にも、笑いを交えながら、話されました。

ここで古川会長から、学校運営の参画について「見える化」の具体的な取り組みをしているか？という質問が会場参加者の事務長へ投げかけられました。

### 事務長の取り組み

- PTA活動に積極的に関わる。
- 学校管理運営規程を作成する際に、学校運営組織図に事務長の位置づけをして作成した。
- 各学校の学校運営組織図に共同実施組織を入れて、仕事をしやすいようにした。
- 式典の開会・閉会を事務長も行う。支援室内学校を回り、校長や事務職員の意見を聞く。



などの意見があり、特に学校運営組織図の整備は、事務長が個人ではなく、制度として確立できるようにした事に大きな意義がありました。

ここで、藤原先生より、現在目標とすべき事務職員がいるかどうかのYes・Noアンケートがあり、『Yesをあげた人が多くて安心した。ほれこみ力はとても大事で、若手の職員はいきなり先ほどのような事務長の仕事はできないため、当面は県費・市費の事務をしっかりとこなしながら学校をよくすることを考え、なるべくいい先輩に出会い、たくさんの事を学び、若手の職員なりに共同実施で問題解決をすることができるようになってほしい』と、若手の事務職員へメッセージをいただきました。

次に、事務職員が校長からどのようなことを相談されているか、会場へ質問が投げかけられました。会場で近くに座る事務職員同士が話し合った結果、危機管理の面や、コミュニケーションの取り方やタイムマネジメントの仕方を新規採用教員へ教えてほしい、地域との窓口になってほしいなど様々な相談内容があげられ、それに基づいて、危機管理の面では企画委員会に出席しているか？(yesが90%)、非常勤スタッフが増えている中で、人を育てるアンテナが出ていなければならないことなど、意見交換が活発に行われました。

お二人の話は、共同実施へもどり、そもそも共同実施とは？について藤原先生より次の質問がありました。

共同実施とは、問題解決能力を上げる道具であり、学校目標を達成するように役に立つのが事務職員だが、一人では難しいのでチーム(共同実施)を組む必要がある。事務処理だけなら事務職員の先はない。実際に、学校運営がよくなっているのか？

### 佐賀県は怎うなの？

カードのどちらをあげるか迷っている事務職員の、「事務処理の面では大変役に立っているが、学校目標の実現まで踏み込んでいるかはわからない」という率直な意見を聞いた藤原先生が、『仮説では、佐賀県は教員との関係の対等性が高い県と感じている。県費と市費の合理的な執行が今の主であり、佐賀県は制度を作り上げた以上、制度を作った後、本当に学校は良くなったのか？ということが問題になる。学校が良くなったね！という言葉が校長から聞けるかが重要』と今後の共同実施についての意見を述べられました。

「佐賀県の共同実施は成功している」という事例もまじえた古川会長の言葉に、会場からも、市町の教育長と様々な意見交換ができるようになったのは、共同実施のおかげであることや、心身ともにつらいときに、事務長に支えてもらったことなど、目に見えない部分まで共同実施についての意見が寄せられました。

これらの意見に藤原先生は、『再度、共同実施の「見える化」の重要性(書



類のミスが減った・・・ではなく、もっとそれ以上のものがあるはず)を上げ、さらに、リーダーの世代交代が必要な中、今大会では、会場の全員に言葉に出してもらうことが大事で、現リーダーの後を継ぐような人材が出て、事務職員全員が何を考えているのかの証拠・根拠をもって熊本大会に挑んで欲しい』との想いを伝えられました。

最後に、「一つの頭脳・エンジンで動く組織は弱い。来年の熊本大会では、全員で並行処理ができる佐賀の組織を見せてほしい。若手の事務職員は特に、どの職場にいても地域に貢献する心を忘れず、毎日の仕事のほんの少しの所にこだわりがもてるか、そういう仕事をして役に立てるように、事務職員として一人一人考えてほしい。エビデンスをもとに、たくさんの知識・知恵を集約して、熊本大会で提案すべき。今後の皆さんの頭脳・エンジンに期待している」と締めくくり、時に核心にせまり、時になごやかな笑いもありながら、会場全体を巻き込んで全員が考えることができる講演となりました。本日の講演で学んだ事や考えたことをそれぞれの事務職員がしっかり心にとめ、日々の業務へつなげてほしいと思います。

#### 【大会アンケートより】

- 取り組みもよかったが、藤原先生と古川会長のやりとりも楽しかったです。会場からもう少し発言が多ければ盛り上がったと思います。
- 佐賀県の取り組みは進んでいると思います。あとは自分たちが「見える化」できるかです。

## 総会行事 ～役員紹介～

今年度の佐事研役員を紹介します。佐事研を引っ張る原動力として頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

役 職 名	氏 名	所 属
会 長	古川 治	佐賀市立城南中学校
副 会 長	近藤 ひろ子	鳥栖市立田代小学校
副 会 長	七田 英幸	佐賀市立北川副小学校
副 会 長	才田 充治	唐津市立唐津一中学校
副 会 長	松本 賢次郎	武雄市立武雄小学校
研 究 開 発 部 長	野中 辰茂	太良町立大浦小学校
研 修 企 画 部 長	古賀 由美子	白石町立白石小学校
情 報 推 進 部 長	橋間 和隆	神崎市立脊振小学校
事 務 局 長	福田 裕子	武雄市立山内中学校
事務局次長(業務)	生方 美代	吉野ヶ里町立三田川中学校
事務局次長(財務)	坂口 勲	多久市立小中一貫校東原庁舎 中央校中央中学校

#### ■編集後記■

今後とも、みなさまのよりよい情報をお伝えしていきたいと思っていますので、原稿やご意見・ご感想がありましたら各地区の部員までお願いします。

情報推進部